



八景中学校だより

四季彩



第11号

令和8年1月9日(金)

三田市立八景中学校

今年は「ウマどし」

新春の澄みわたる空気の中、新たな年が始まりました。
 昨年にはたくさんのご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
 みなさまのご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。
 本年もどうぞよろしくお願いいたします。

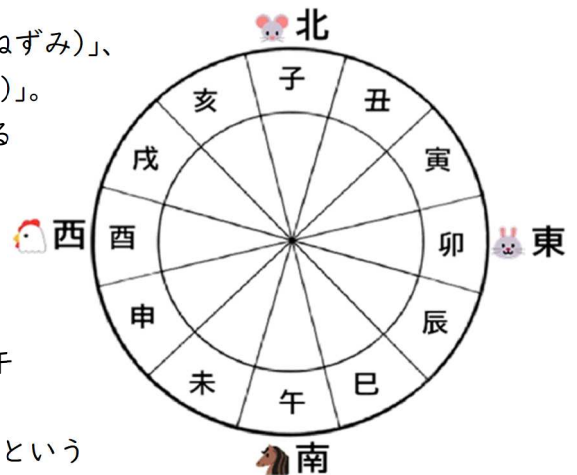


今年「ウマどし」。「ウマどし」は「馬年」ではなく、「午年」と書きます。ところでこの「午」という字、よく見かけませんか？

「正午」「午前」「午後」など、時間を表す言葉に使われています。これは、江戸時代までに使われていた時刻の考え方に由来するものです。干支で時刻を数える場合、おおむね午後11時から午前1時までの2時間を「子の刻」とし、そこから2時間ごとに、うし丑・とら寅・う卯・たつ辰・み巳・うま午・ひつじ未・さる申・とり酉・いぬ戌・い亥と順番に進んでいきます。そうすると、午前11時から午後1時までの2時間が「午の刻」。そのちょうど真ん中・お昼の12時を「正午」と呼びます。正午の前が「午前」、その後が「午後」と言うことです。 ※右の図を参照

さらに、干支は方角を表す際にも使われます。北が「子(ねずみ)」、東が「卯(うさぎ)」、南が「午(うま)」で西が「酉(とり)」。北極と南極を結ぶ線を「子午線」と呼ぶのもこれに由来するそうです。

そんな「午」・馬は本来前進する動物で、後ろを振り返らずに進む姿が夢に向かって進む人の姿の象徴とされています。また、神社に奉納される「絵馬」は、馬が神様の使いとされていたことに由来します。更に、前述のとおり「午の刻」は一日の中で正午(真昼)を表しています。つまり、太陽の光が最も強くなる時間で、「陽の気」が満ちる時間帯ということです。



これらのことから、「午(馬)」は成長や成功、繁栄のシンボルとして縁起が良いものとされており、「午年」は“活発で前向きな年”“物事がスムーズに進みやすい年”“努力が形になりやすい年”と言われています。

そんなこんなで、今年には新しいことに挑戦するのにもぴったりの一年と言えるでしょう。勉強でも何でも、これまでの努力が成果として形になったり、新しいことにチャレンジしたりするのに良いタイミングかもしれません。

1年の始まりである1月に、目標を立て、「馬が合う」仲間と共に前に進み、秋には“天高く馬肥ゆる秋”となることを期待しましょう。決して、「馬の耳に念仏」とならないように。

クリーンデーに参加しました

12月14日(日)の三田市クリーンデーに中学生が参加しました。当日は雨模様だったため少なめの参加でしたが、たくさんの方々が、自分たちの地域を自分たちの手で守ってほしいという姿は、地域のつながりを感じるものでした。中学生も家庭・地域の一員として、地域の快適な

環境づくりや美しい街づくりに貢献しました。

中学生が地域で活動することを通して、自分たちの街を大切に思う気持ちが生まれ、街の活性化にもつながればと願っています。

今回は、2月8日（日）のクリーンデーです。地域で活動する中学生を、どうぞよろしくお願いします。



一隅を照らす此れ即ち国宝なり

新しい年・2026年が始まりました。ぜひ、この始まりの時に、「今年は〇〇をがんばるぞ」「今学期は◇◇をするぞ」と目標を立て、なりたい自分を夢みて生活してほしいと願います。

私は年末年始、つれあいの実家である滋賀県で過ごしました。そこで、滋賀県にある比叡山延暦寺にまつわるお話をします。

延暦寺は、平安時代に、最澄（伝教大師）というお坊さんが、比叡山に開いた天台宗のお寺。初詣での名所です。「油断大敵」という言葉は、この延暦寺の中で生まれたそうです。その延暦寺のふもとを歩いていると「一隅を照らす」という看板をよく見ます。

「一隅を照らす」という言葉は、最澄さんが書いた「山家学生式」という書物の最初に出てきます。この本の中では、「一隅」とは、自分が今置かれている場所や立場を言います。最澄さんは、「自分が置かれたその場所・役割で、精一杯努力して役割を果たし、明るく輝く人になろう」と教えています。そういう人が社会の宝物だということです。

よく考えればその通りだと感じます。野球でいえば、ピッチャーにはピッチャーの役割があるし、三塁手には三塁手の守備範囲がある。ベンチやスタンドで応援する人の力も大きいもの。バレーボールでは、セッター、アタッカー、レシーブする人もみんながボールをつないでチームが勝てる。演劇なら、たくさんの役者、照明さんや道具を準備する人がいて、それぞれの担当をしっかりと果たしてこそ、観客を楽しませる舞台ができる。

誰にも、集団の中で、立場や役割があります。みなさんは大切な一人です。

(1) 集団の中で、自分のやるべきこと・役割を自覚して、勉強や仕事に一生懸命に励むこと。自分が自分の持ち場で最善を尽くすことで、自分がやりがいを感じて輝ける。まずは自分を照らすのです。

(2) そのあなたの行動が、周囲の人の心を動かし（周囲を照らし）、周りの人も最善を尽くすようになる。そのことで、周りの人も輝く。他の人を照らすことになります。

そこに集う人同士がお互いに良い影響を与え合い、やがて、その場所が、社会全体が明るく照らされていく。それが「一隅を照らす」ということの教えです。

各クラスでは、新学期の学活で新しい班や学級組織ができます。班やクラスの中で、自分がすべき役割を一生懸命にやり遂げると、みんなの役に立ち、感謝され、自分も周りも気持ちが明るくなります。歌が得意な人は音楽の時間に力を発揮し、部活で活躍する人もいます。掃除を丁寧にやる人が力を発揮する場面もあるでしょう。また、勉強が好きで、コツコツ努力をして授業を盛り上げる人もいます。

がんばっている人の姿を見て、「わたしもがんばろう」「オレも手伝うで」と前向きになる人が出てくるのです。そうすると、みんなが照らされ、輝ける学校、社会になる。

毎日、「一隅を照らす」行動をする自分になると、この1年が、八景中が明るくなると思います。

(3 学期始業式式辞より)

